スポーツ報知 SPORTS HOCHI

メジャーでももっともっと正尚基金

ゴールデンスピリット賞 GOLDEN SPIRIT AWARD

開発途上国子どもへ 1本塁打10万円 総額1000万円超

プロ野球人の社会貢献活動を表彰する報知新聞社制定「第23回ゴールデンスピリット賞」を受賞したオリックス・吉田正尚外野手（29）が2日、東京・渋谷のセルリアンタワー東急ホテルで行われた表彰式に出席した。2019年から公式戦でのホームラン1本につき10万円などを、開発途上国で貧困に苦しむ子どもたちへ寄贈。今オフはポスティングシステムによる米大リーグ挑戦を目指しており、海の向こうでも「ホームラン基金」を継続することを誓った。

表彰式

クレメンテ賞も目標

食い入るように画面を見つめた。吉田正が思いを受け止めた。「映像を見て（胸に）来るもの、感じるものがありました」。祝賀パーティーで流されたのはカンボジアやフィリピン、バングラデシュの子どもたちによるメッセージ動画。「ありがとう」の言葉に、活動の広がりを実感した。

19年から公式戦1本塁打につき10万円と、ファンからの募金を合わせて寄付金とし、認定NPO法人「国境なき子どもたち」を通じて開発途上国で貧困に苦しむ子どもたちへ寄贈。慈善活動をサポートしているNPO法人「ベースボール・レジェンド・ファウンデーション」（BLF）の協力もあり、4年間で総額は1000万円を超えた。

「入団当初から、社会貢献活動ができるようなプロ野球選手になりたいと思っていた」。活動初年度に自己最多の29本塁打。リーグ連覇、26年ぶりの日本一に貢献した今季まで85本塁打を積み重ねてきた。「小さい頃からの夢」と今オフ、ポスティングシステムによる米大リーグ挑戦。「引き続き、モチベーションの一つとして、このような支援ができればいいと思います」と活動継続を約束した。

基金のベースとなるのはホームラン。「打たなかったらヤバいですよね。違う寄付を考えます…」とはもちろん冗談だ。海の向こうでも美しいスイングから量産し、変わらずファンとともに歩んでいくのが理想。ゴールデンスピリット賞の手本となっているのが「ロベルト・クレメンテ賞」で「活動と実績の2つがないと取れない。一番の賞だと聞いています。いずれは…」と受賞も大目標とした。

コロナ禍が落ち着けば支援する国々を訪れ、文化や子どもたちとふれ合うことを本気で思い描いている。「来シーズン、これからの野球人生も、もっともっと高みを目指して頑張っていきたいと思います」。継続は力、有言実行。グラウンド内外の使命を双肩に乗せる。（長田　亨）

主催　報知新聞社
後援　一般社団法人日本野球機構
協賛　株式会社アイ・インベストメント
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
株式会社トーヨーホールディングス
保険情報サービス株式会社
株式会社岡田製作所

ゴールデンスピリット賞の表彰式に出席したオリックスの吉田正（カメラ・池内　雅彦）

◆ゴールデンスピリット賞　日本のプロ野球球団に所属する人の中から、積極的に社会貢献活動を続けている人を表彰する。毎年1回選考委員会（委員名別掲）を開いて、球団推薦で選ばれた候補者から1人を選定する。社会貢献活動の表彰は米大リーグの「ロベルト・クレメンテ賞」が有名で、球界最高の賞として大リーガーの憧れの的になっている。日本では球場外の功績を評価する表彰制度は同賞が初めて。いわば「球場外のMVP」。受賞者にはゴールデントロフィー（東京芸術大学名誉教授・絹谷幸二氏作製のブロンズ像）と阿部雄二賞（100万円）が贈られる。また受賞者が指定する団体、施設などに報知新聞社が200万円を寄贈する。

◆阿部雄二賞　本賞を第1回から協賛している株式会社アイ・インベストメントの代表取締役社長・阿部雄二氏が2001年4月9日に逝去したことを受け、報知新聞社が「阿部雄二賞」を創設した。

株式会社アイ・インベストメントの板橋透代表取締役社長（左）から目録を受け取る吉田正

東京五輪日本代表

◆吉田　正尚（よしだ・まさたか）1993年7月15日、福井県生まれ。29歳。敦賀気比高から青学大を経て、15年ドラフト1位でオリックス入団。20、21年に首位打者、今季は2年連続2度目の最高出塁率。ベストナイン5度。19年プレミア12、21年東京五輪で日本代表。通算成績は762試合で打率3割2分7厘、133本塁打、467打点。173㌢、85㌔。右投左打。年俸4億円。既婚。

現地子どもから映像メッセージ

○…認定NPO法人「国境なき子どもたち」の会長を務める寺田朗子氏が壇上で祝辞を述べた。「吉田選手のおかげで何人の子どもたちが夢を捨てないで、毎日を過ごせているか。大きな温かい愛情を注いでいただいている。本当におめでとうございます」。寄付先のカンボジアなどの現地の子どもたちから、ビデオメッセージも届いた。また、オリックス・湊通夫球団社長は謝辞とともに「メジャーでも」と言葉を選んだ。今後の自身のスケジュールも不透明なだけに、慎重な姿勢を示した。

本紙評論家の宮本和知氏（左）から質問を受ける吉田正

宮本さんと軽妙トークショー WBCは「まだわからない」

吉田正は表彰式後にスポーツ報知評論家・宮本和知氏とのトークショーに臨んだ。初対面ながら、チャリティー活動に至った経緯や今季を振り返るなど、軽妙なやりとりを展開。4月10日のロッテ戦（ZOZOマリン）で佐々木朗に完全試合を喫した話題に「僕も3打席立ちましたが、どうしようもなかったというか。フォークが独特で、マリン（球場特有）の風もあって見たこともない軌道で落ちてきて」と当時の衝撃を思い返した。

また、メジャー移籍を目指す中、来年3月にWBCが控えていることには「（東京）五輪を経験して、WBCは自分の目標でもありますし、プレーしたい気持ちもありますが、まだわからないことがある」と言及。その後の取材対応でも「僕も新しいチャレンジをするところにいる。いろいろ決まってから」と言葉を選んだ。今後の自身のスケジュールも不透明なだけに、慎重な姿勢を示した。

選考委員

大塚　義治　日本赤十字社名誉社長
斉藤　惇　プロ野球コミッショナー
佐山　和夫　ノンフィクション作家。米大リーグに造詣が深い。ゴールデンスピリット賞の提唱者の一人。2021年野球殿堂入り。
長嶋　茂雄　読売巨人軍終身名誉監督。現役時代のチャリティー活動が評価され、1982年に日本のプロ野球人として初めてローマ法王ヨハネ・パウロ2世に謁見（えっけん）した。88年バチカン市国からバチカン有功十字勲章を受章。
二屋　裕子　日本バスケットボール協会会長。バレーボール女子日本代表としてロス五輪銅メダル。
依田　裕彦　報知新聞社代表取締役社長
（敬称略・50音順）

写真に納まる（左から）佐山和夫氏、斉藤惇NPBコミッショナー、吉田正尚、依田裕彦報知新聞社代表取締役社長

長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督は欠席のため祝辞が披露された

吉田正は寺田朗子会長に寄付金を渡した

長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督は欠席のため祝辞が披露された。

もロベルト・クレメンテ賞を目指して頑張ってもらいたい」とエール。欠席した選考委員の長嶋茂雄・読売巨人軍終身名誉監督のお祝いの言葉も代読された。